

2024

美術準備室

つ　く　る　・　み　る　・　感　じ　と　る

第 24 号

光村図書



アトリエ訪問
写真家

浅田政志

アートが生まれるとき
澤田真一

この1点
「松林図屏風」
砥上裕將

内容解説資料

本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

特集
令和7年度版
中学校
『美術』教科書の
ご案内

ア ト リ エ
訪 問

第 24 回

浅田政志

写真家

家族をテーマに、ユニークな写真を撮り続けている
写真家・浅田政志。

映画「浅田家!」のモデルとしても知られる彼の作品は、
どのようにして生まれるのだろう。

その自宅を訪ね、撮影の裏側取材した。

撮影 伊東俊介





仕事部屋のメインとなるスペース。正面の大漁旗がひときわ目を引く。

三重県は津駅から車で走ること30分弱。浅田邸を探し、あたりを見回していると、手を挙げてこちらに微笑みかける男性と目が合う。玄関先で出迎えてくれたのは、浅田政志その人だった。

——こちらはアトリエではなく、ご自宅なのですね。

浅田 そうです。いつも撮影や打ち合わせには自分が出向くので、仕事相手を迎えることは新鮮です。

——東京で長く活動されていたかと思うのですが、地元である津に拠点を移された理由を教えてください。

浅田 戻ってきたのは、3年ほど前なんですよね。息子が小学校に入学するタイミングで帰ってきました。東京には24歳のときに出了たので、住んでいたのは15年くらい。最初は意気揚々と出て行ったんですけど、30代半ばくらいになって、どんどん三重が恋しくなってきた。今はリモートワークが進んだこともあり、撮影のときだけ現場に行くことが多いです。——全国に撮影に行くのは大変ではないですか。

浅田 朝5時半ぐらいの津駅発の電車に乗ると、8時半には東京に着くん

被写体の方に 撮影楽しかったな と思ってもらいたい。

ですよ。日帰りもできる。大阪や名古屋……日本全国に撮影に行くとすると、三重県は真ん中あたりなので、都合がいいです。

——ご自宅ではどんな仕事をされていますか。

浅田 撮影した写真は、1日だけでも何百枚にもなるので、それをセレクトしたり、画像データを調整したりします。特にセレクトは、なるべく撮ったその日にやるように心がけています。撮った日だと、頭の中に映像が残っているので、どのあたりがよかったかわかるので。早く見た

いだけ、というのものもありますが(笑)。——ご自宅のお気に入りのポイントを教えてください。

浅田 この家は地元の友人に設計してもらったんですが、その方のアイデアで壁に写真を飾れるようになっているんです(※1)。毎日眺めるわけではないけれど、ふとしたときに見たり、その存在が感じられたりすることが写真を飾るメリットだと思っています。

——令和7年度版中学校『美術1』の巻頭では、12名の中学生に被写体になってもらい、どんなポーズや表情にするか一緒に考えながら作品を撮りおろしていただきました。

浅田 大人数での撮影のときに心がけているのは、全員のキャラクターをちゃんと立たせること。人数が多くなってくると、一人くらいいてもいなくても変わらないような感じになってしまうがちです。全員がいるからこそ、1枚が成り立っているようなものを撮れたらベストだなと思います。



※1 壁面の写真は、浅田さんがいちばん好きだと語る津の海で撮影されたもの。手前が津の海のシンボルマークともいえる造船所、奥が浅田さんお気に入りの赤い灯台というふうに、その場所に立ったときのように見える配置になっている。



玄関に飾られた大きな作品は、『浅田家』の続編ともいえる写真集『NEW LIFE』に収録された一点。



浅田さんが中学生とともに作
り上げた作品は、ぜひ中学校
の新版教科書『美術1』P.2～
3にてご覧ください。

編集部が持参した教科書の校正紙を
厳しい目でチェックする浅田さん。



上／撮りおろし作品の撮影風景。
作品とともに掲載される谷川俊太郎氏の文
「うつくしい!」に寄せて、生徒たちが
「うつくしい!」ものを探しているシーンを演出する形で
撮影が行われた。(写真:編集部)
下／同じく撮影風景。たった今撮影した写真を、
参加者全員で確認中。(写真:編集部)

——被写体のポーズはどのように決めているのでしょうか。

浅田 例えばジャンプしてもらった子がいるのですが、みんなに「誰がいちばん跳ぶのに向いているか」というのを聞いて決めました。子どもに聞くと「こいつはバレー部だから」とか「おもしろいから」とか、いろいろ話が出てきます。僕が一方的に役割を与えるのではなくて、子どもと一緒に考えて、一人一人の性格などもふまえながらつくっていきました。——写真を撮るうえで、大切にしていること、心がけていることを教えてください。

浅田 仕事として撮っている以上、最終的には誰かに見てもらうという目的はありますが、まずは被写体の



方に「撮影楽しかったな」と思ってもらいたい。それから、撮ったものがその方にとって特別な写真になったら嬉しいなと思っています。——これから写真を撮ろうと思っています。中学生にアドバイスをお願いします。

浅田 今の中学生は、どうやったらうまく撮れるか、よく見えるか、といったことが体に染みついている、

自然に撮れる世代に見えるんですよ。ですから、思う存分撮ってもらえれば、すごくいい写真になると思います。街をただぶらぶら歩いているのと、何かを撮ろうと思って歩くのとでは、見えるものが全然変わってくる。だから、スマートフォンでもタブレットでも、レンズを向けてじっと見て、素直にいっぱい撮っていったらいいと思います。



あさだ・まさし
1979年三重県生まれ。日本写真映像専門学校研究科卒業。2009年、写真集『浅田家』(赤々舎)で第34回木村伊兵衛写真賞を受賞。2020年には著書の『浅田家』、および『アルバムのカラ』(赤々舎)を原案とした映画『浅田家!』が全国東宝系にて公開される。2023年、新作撮りおろしによる初の劇場での個展「浅田政志展 | YOKOHAMA PHOTOGRAPH ーわたし/わたしたちのいまー」を神奈川芸術劇場で開催。

特集

新版教科書のご案内

光村図書の新しい中学校『美術』は、
授業の取材を重ね、生徒たちの声に耳をすまして、編集した教科書です。
この時代だからできる、新しい鑑賞体験を。
生徒たちがのびのびと自分の表現を追求できるように。
本特集では、編集に携わった先生方に、
新版教科書の魅力をご紹介します。

撮影 田尾沙織 (P.4)、鈴木俊介 (P.5~11)



座談会

生徒の姿が見える、ワクワクする教科書

令和7年度版中学校『美術』教科書の編集に携わった先生方に
新しい教科書の魅力を語っていただきました。

聞き手 光村図書出版 編集部



たなか しんじろう
田中真二郎

秋田県大仙市立
中仙中学校教諭



さくら しな ゆき
更科結希

北海道教育大学附属釧路義務教育学校
後期課程教諭



すず き まさ ゆき
鈴木雅之

宮城県柴田郡大河原町立
金ヶ瀬中学校教頭



そん ちゃん で
宣昌大

大阪教育大学附属
天王寺中学校教諭



つづみ よし あき
堤祥晃

滋賀県高島市立
安曇川中学校教諭

生徒の姿が見える教科書に

——新版教科書は、現場で生徒たちと向き合っている先生方と何度も会議を重ね、編集していきました。それぞれどんな思いで教科書づくりに携わったのかをお話ください。

田中 生徒が教科書を見て「自分ならこんなものをつくりたい、やってみよう」と思えるような教科書づくりを目指しました。生徒が自分の思いや、中学生時代にしかできないことが素直に表現できるような教科書にしたいと思いました。

更科 掲載されている作品に迫力があって、生徒の目に飛び込んでくるような、ワクワクする教科書になるといいなと。ワクワク感はとても大

事。それが生徒の「もっとつくりたい、もっと見てみたい」という意欲につながりますから。もちろん授業をする先生方が使いやすいということも大事です。

宣 ただ作品が載っていて、そのための技法があるのではなく、生徒の思いが先にあって、その思いを表現するためにはどうすればいいかが載っている教科書。そういう教科書が求められていると思いました。

堤 作品だけでなく、生徒たちの活動の姿、そこにある生徒たちの思いが見える教科書にしたいと思いました。カタログ的に作品が載っているのではなく、授業や生徒の活動の様子が伝わる教科書です。

鈴木 私は光村図書の中学校と高等

学校の教科書編集に携わっていますが、光村の教科書はいつも「かっこいい」と感じています。見た目のレイアウトのよさはもちろん、実際の授業をしっかりと取材して、生徒の声に耳を傾けるなど、生徒の思いを大事にしている編集の姿勢もかっこいい。新版教科書でも、そのよさを大事にしたいと思いました。

生徒の試行錯誤が見える「みんなの工夫」

——光村図書では、平成28年度版教科書より、生徒の制作過程を丁寧に紹介した「みんなの工夫」というコーナーを設けています。新版教科書では、ここをさらにパワーアップしました。

鈴木 編集会議では、「生徒が試行錯誤しながら制作している様子をもっと伝わるようにしたい」と、何度も議論しましたよね。なので新版教科書では、生徒の思いや考えを吹き出しで示し、生徒が試行錯誤している思考の流れがわかるような紙面にしました。

田中 「私はこれを表したい」「そのためにどうしたらいいのかな」という思いや試行錯誤する様子が、非常によく伝わる紙面になりました。生徒が何を思って、どう工夫したのか、美術の学習でいちばん大事なところが見えますよね。

更科 「みんなの工夫」は、生徒は もちろん、新任の先生や免許外の先生方にとっても、いいコーナーだと思います。ここを見れば授業のイメージがもて、生徒のどんなところを見取るべきなのかがわかります。

——「地域の魅力を表すパッケージ」の「みんなの工夫」(『美術2・3』P.90～91)では、宣先生、田中先生、更科先生の授業を取材しました。

宣 デザインの授業は、課題があった、それを解決するという形にした



田中真二郎
たなか・しんじろう

秋田県生まれ。秋田県大仙市立中仙中学校教諭。宮城教育大学大学院修了後、宮城県私立高校非常勤講師、秋田県公立中学校教諭を経て、2022年より現職。2012年、博報賞受賞。著書に『中学校美術 題材&授業プラン36』(明治図書 2019年)。光村図書中学校『美術』教科書の編集委員。

いと思っています。私の学校は大阪にあるので、大阪をどうアピールするかを考えさせる題材にしました。最初に、大阪をアピールするための形や色を探してもらい、レポート形式で発表させました。自分の考えや工夫を、クラスで共有しながら制作するというのを意識しながら進めた題材です。

——パッケージの形を考えさせる際、数学科とのつながりも意識されていましたね。

宣 生徒たちは数学の授業で、多面体などの空間図形を1年3学期に学習します。数学の先生から、「空間認識が苦手な生徒は、平面を立体に変換するのが難しい」と聞き、美術の授業では、数学の知識を使いながら、実際に手を動かして平面から立体をつくらせようと思いました。

——田中先生は、いかがですか。

田中 やはりデザインは課題意識が大切ですね。私の場合は、まず地元のいろいろなお土産をウェブサイトで見せました。うちの地元のお土産は渋いデザインのものが多いので、それをどう改善すれば、幅広い層に買ってもらえるかを考えさせるところから始めました。この生徒は、秋田の名産である枝豆を使ったロールケーキのパッケージを、外国人観光客に向けてデザインしていました。

更科 私は、地元のお菓子屋さんに協力してもらい、そのお店のお菓子のパッケージをリデザインするという題材にしました。地元で愛されているお菓子を、もっと多くの人に買ってもらうためにはどうすればいいか、生徒たちは一生懸命考えていましたよ。最終的に、生徒がデザインしたお菓子のパッケージを、お店で販売してもらいました。

「みんなの工夫」

表現題材に「みんなの工夫」という、制作過程を丁寧に紹介したページを設けています。

自分の住む地域の魅力が多くの人に伝わるようなパッケージデザインを考える題材。

『美術2・3』P.90～91「地域の魅力を表すパッケージ」

表現 発想・構想 みんなの工夫 地域の魅力を表すパッケージをデザインする

大阪のシンボル、大阪城をアピールしたい。どんな形にすればよいか。

大阪城は季節ごとによさがある。四季の一つのパッケージで表すには、どうしたらよだろう。

箱の四つの面に、四季の風景を描くといかも。

大阪城は極度有名ですが、夏、秋、冬もそれぞれ魅力があることを伝えるため、箱の側面を使って四季を表しました。

数学の授業で学んだ多面体の展開図をもとに、形を考えてみよう。

アイディアスケッチ

生徒作品 大阪城の四季 紙、色鉛筆、ペン、アクリル 高さ21cm

作者の意図

上の写真は春と夏、下の写真は秋と冬を描いた面。

秋田名産の枝豆を使ったお菓子をデザインしたい。外国人観光客をターゲットにするなら、どんなデザインがよだろう。

アイディアスケッチ

外国人観光客向けに、シンプルでスタイリッシュなデザインにしたい。英語の表示も入れよう。

生徒作品 枝豆ロールケーキ 紙、写真、筆ペン、ペン 高さ10cm

作者の意図

誰でも手に取りやすいようにシンプルにしました。外国から来た観光客向けに、商品名は英語でも表記し、上面には、はんこ風に「秋田県産枝豆」と描いてアクセントにしました。

お土産売り場で積まれても目立つように、側面に枝豆の形をした色紙を貼って、商品の特徴を示そう。

外国人の目に留まるように、商品名は筆文字にしよう。

作者のインタビュー動画

QRコードから、作者である生徒のインタビュー動画が視聴できます。作品をつくるときに工夫したところ、苦労したところなどを聞き、5分程度の動画にまとめました。

苦労したところは？

側面の布地を想像して描いたりするのが難しかったです。

どんな材料を使いましたか？

画用紙とアクリル絵の具と色鉛筆

タンチョウは、羽を広げたところがいちばんカッコいい。この姿をできるだけ目立たせたいな。

パッケージに持ち手があると便利だ。タンチョウの羽の部分を持ち手にするといいかも。

タンチョウが集まる釧路湿原の緑と、夕日の輝きをイメージして色を決めました。タンチョウらしさを表しつつ、持ちやすい形にするために、羽の部分に工夫しました。

白のタンチョウに、赤の文字を入れたら目立つかな。

きちんと閉じられるように、裏に紙を差し込む穴を空けよう。

数学科とのつながり

パッケージをつくる時は、数学科で学んだ多面体や角錐、円錐などの立体の特徴や、展開図のかき方を思い出そう。持ち運ぶ、売り場に並べる、積み重ねるなど、パッケージの使い方を踏まえて、最も適した形を考えよう。

さまざまな展開図

①灰色の部分はのりしろ

四角柱の箱の例

三角錐(正四面体)の箱の例

さまざまな立体の展開図を見てみよう。

生徒の思考の流れがわかる

生徒の思いや考えを吹き出しで示し、どのように作品を発想し、構想を練りながらつくっていったかわかるようにしました。

複数の生徒の制作過程を紹介

発想や構想のしかたが異なる2名と1組の生徒の制作過程を紹介。左上は大阪、左下は秋田、右上は北海道の生徒。

他教科とのつながり

他教科との関連を示しています。この題材では、数学科の空間図形で学んだ立体の展開図を紹介しています。



「体感ミュージアム」

多様なQRコンテンツと一緒に作品を観て、鑑賞を深める題材です。



書き込みツール&高精細画像

鑑賞図版を拡大したり、線やせりふを書き込んだりして、鑑賞を深めることができます。



作家解説動画「レオナルド・ダ・ヴィンチ」

レオナルドの生涯や代表作を5分で解説。

用語解説動画「ルネサンス」

美術史における「ルネサンス」を5分で解説。



生徒の工夫がわかる インタビュー動画

——新しい試みとして、「みんなの工夫」の紙面のQRコードから、作者のインタビュー動画を視聴できるようにしました(本誌P.7参照)。これも先生方からのアイデアで生まれたものです。

田中 生徒の思いがストレートに伝わり、とてもいい動画になりましたよね。紙面には掲載しきれなかった、生徒の細かい工夫点がわかります。

宣 私は授業でこの動画を、制作の合間に見せたいですね。生徒が制作しているときに、教科書にはこういう作品があるんだけど、ちょっと見てみようか、と。生徒たちは同世代の声に敏感です。刺激を受けて、作品がよりよくなっていくはず。

田中 私は最初に作品だけ見せて、そのよさや工夫点を考えさせ、その後「それでは作者はどう考えていたんだろう」と投げかけてこの動画を見せたい。主題を表すのに、この作者はどう工夫しているのかなって。

更科 小規模校ではすごくありがたい動画だと思います。私の学校の周辺には十数人規模の学校がたくさんありますが、限られたメンバーしかないというときに、こういった動画があるとモチベーションが上がります。同世代が考えていることというのはとても刺激になりますよね。

鈴木 新任や免許外の先生方にも授業のポイントがすごくよく伝わる動画ですね。考えさせるポイント、見取りのポイントがよくわかります。

コンテンツで鑑賞を深める 「体感ミュージアム」

——1人1台端末になったことを受けて、今回、「体感ミュージアム」



更科結希

さらしな・ゆき

北海道生まれ。北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程教諭。北海道教育大学卒業後、北海道釧路町の公立中学校教諭を経て、2012年4月より現職。北海道教育大学大学院修了。著書に『中学校美術の「学び合い」題材&授業プラン』(明治図書 2023年)。光村図書中学校『美術』教科書の編集委員。

という鑑賞題材を設けました。紙面のQRコードから多様なコンテンツを視聴して鑑賞を深める題材です。端末を活用しながら、体感的に鑑賞できます。

堤 豊富なコンテンツをいろいろと試してみたいです。たとえば「書き込みツール&高精細画像」(本誌 P.8 参照)を使ってどんな授業ができるか考えてみるのはおもしろそう。

田中 鑑賞の授業は準備が大変なので、作家の解説動画などがあると、とても助かります。限られた授業時間で、作品が生まれた背景までしっかり教えることができます。

堤 これまでは、YouTubeの動画を見せたり、ワークシートを自作したりしてきましたが、新版教科書では、それがQRコンテンツとして全部用意されている。さらに指導書に授業例があれば、鑑賞を苦手と感じている先生でもスッと取り組めると思います。

——美術史用語の解説動画もあります。たとえば「ルネサンス」「印象派」について、5分程度にまとめています。

田中 情報を凝縮した、わかりやす

い解説動画ですよ。『印象派』などの用語を、美術史の文脈できちんと解説しようとすると事前準備が大変なので、とても助かります。こういった動画があれば、鑑賞の時間ももっと豊かになるでしょうね。

自分の表現方法を見つけられる 別冊『資料』

——新版教科書では、技法や色の資料を別冊にしました。

鈴木 教科書の資料部分が別冊になっていたのいいのと、ずっと思っていたので、この別冊『資料』が実現してとても嬉しいです。まず、表紙がかっこいいですよ(笑)。いろいろな描画材や材料があって、見ただけでワクワクする。ページを開くと、中学3年間で必要な資料がギュッと凝縮されています。

田中 36ページという分量もコンパクトでいい。ほしい情報にすぐ到達できます。実用的で、3年間活用できる資料集だと思います。

宣 紙面に掲載されている情報は簡潔にまとめられていて、詳細はQRコードから動画で見られるようになっています。これが、今の生徒たちの感覚に合っていると感じます。

堤 生徒たちは、興味をもった技法について、自由にQRコードから動画を見て理解を深めていくでしょうね。自分が知りたいタイミングで、自分の知りたい情報に触れるというのが個別最適な学びだと思います。

宣 入り口がたくさんあるのがいい。そのための最初のスイッチを押すのが教師の役割だと思います。

田中 主題生成のときに私たちがどう関わるかですよ。主題が生まれたら、あとは生徒が別冊『資料』を見ながら好きな表現方法でどんどん

別冊 『美術1 資料』

技法、色彩、思考ツールなど、中学校美術に必要な資料を1冊にまとめました。(詳細は本誌P.12～13参照)



制作を進めて、作品ができあがる。そんな授業ができれば、理想だなと思います。

発想を広げるために

——今回、1年の導入として「発想のしかたはさまざま」(『美術1』P.14～15)というページを新設しました。先生方とゼロから考えて生まれたページです。



鈴木雅之

すずき・まさゆき

東京都生まれ。宮城県柴田郡大河原町立金ヶ瀬中学校教頭。東北生活文化大学生活美術科卒業後、1995年より宮城県公立中学校、宮城県立中高一貫校、宮城県美術館などで勤務し、2023年より現職。現在教頭職4年目。光村図書中学校、高等学校『美術』教科書の編集委員。

田中 一つのモチーフからさまざま
な発想ができることを伝えるページ
がほしいと、以前から思っていました。
ただそれをどう紙面に落とし込
めばよいかかわからず、編集部と何度
も議論をしましたね。

堤 私たちは編集者ではないので、
「こんなページがほしい」というイ
メージを伝えることしかできません。
編集部と相談しながら、少しずつ紙
面に落とし込んでいく作業は、とて
もおもしろかったです。

宣 一つのモチーフから、こんなに
発想が広げられるんだということが、
伝わるページになりましたね。

堤 作品というのは、いわばゴール
です。でも、ゴールよりもスタート
を大切にしたいという私たちの思い
が形にできたと思います。

鈴木 メッセージ性のある魅力的な
ページになりました。1年「絵や彫
刻など」の導入として位置付けてい
るのもいいですね。

ワクワク感を大切に

——先生方が編集会議でいつも言わ
れていたのは「生徒がワクワクする
ような教科書」ということでした。
そこはかなり意識しながら編集した

つもりですが、いかがでしょうか。

田中 まず図版が大きくて刺激的で
す。作品の選択も、インパクトはも
ちろんですが、丁寧に見ていくと、
生徒たちが問いをもちそうな作品、
言葉が出てきそうな作品が選ばれて
いるのがわかります。

更科 『美術2・3』P.27～42「日
本の絵画を楽しむ五つのキーワー
ド」(本誌P.16～17参照)は、五つ
の切り口がとてもいいですね。日
本の絵画の振り幅の大きさが、ギュ
ッと凝縮して見えてきます。風合い
のある用紙に印刷されていて、生徒
たちが絶対に飛びつくページです。

鈴木 生徒の作品でも、作家の作品
でも、迫ってくるようないい作品が
とても多いです。そのバランスがい
い。それから、『美術1』も『美術2・
3』も、巻頭と巻末の「うつくしい!」
の写真がすごくいい。すべて教科書
のために、写真家が撮りおろしたそ
うですね。この写真によって教科書
全体を貫くものが見えるようになって
いると感じます。谷川俊太郎さんの
言葉ともよく合っている。

堤 『美術2・3』P.54～55「今の自
分、これからの自分」の最初のペー
ジ(本誌P.11参照)が好きです。生



宣 昌大
そん・ちゃん

大阪府生まれ。大阪教育大学附属天王寺中
学校教諭。京都精華大学芸術学部造形学科卒
業後、家具職人、大阪府公立中学校教諭を経
て、2022年より現職。兵庫教育大学大学院学
校教育研究科修了。光村図書中学校『美術』
教科書の編集委員。

徒の思いが大きな文字で載っていて
作者の伝えたいことがダイレクトに
届いてきます。まさに生徒の心に響
く紙面づくりだと思いました。

——このページには「人生の花」と
いう堤先生の授業で制作された作品
を掲載しています。

堤 自画像の題材では、自分の顔を
描くのに抵抗感がある生徒もいます。
そこで、顔でなくても自分の内面を
表すことはできるのではないと思い、
花で自分を表現させることにしま
した。この題材は兵庫県のある先
生の実践をベースに、自分なりにア
レンジしたものです。普通に投げか
けると生徒は花を描きますが、人生
を描く題材だから花に見えなくてい
いんだよと、最初に伝えました。

——「今の自分、これからの自分」に
は、顔を描いていない作品や悩んで
いる生徒の作品も掲載しました。そ
れは先生方との会議で、劣等感や悩
みを抱えている生徒もいっぱいいる
とお聞きしたからです。

鈴木 思春期まっただなかですから、
悩みを抱えている生徒は多い。そん
な生徒たちが「自分だけじゃないん



自分自身を作品に表す題材。新版教科書では、背中を向けた自分を描いている作品、
立体で表現している作品、抽象的に表現している作品など、多様な作品を掲載しました。

だ」と思える作品を掲載したいと思
いました。このページの右下の作品
（「降り注ぐ雨は、僕が流した涙」と
いう言葉とともに掲載されている作
品）も、すごくいいですね。

田中 生徒たちには、今しかできな
い表現をしてほしい。「今の自分、
これからの自分」は、主題が生成し
やすい構成だと思いました。この紙
面を見せるだけで生徒は主題を生み
出せそうです。

生徒と並走する教科書

——最後に、教科書をこんなふう
に使ってほしいというメッセージをお
願いします。

更科 授業の最初のきっかけが必ず
ある教科書です。紙面の言葉をその
まま生徒に投げかけても授業が成立
する構成になっています。なので、
まずは教科書をそのまま使ってみて

くださいと言いたいです。

堤 各題材ページや「体感ミュージ
アム」は導入で使いやすい構成にな
っています。「みんなの工夫」は発
想・構想の段階で使えます。そして
制作が始まったら別冊『資料』を使
う。授業のどの段階でも使えるよう
につくられています。

田中 生徒が自分で自分なりの答え
を導き出すことができる教科書にな
っています。授業でどんどん活用し
てほしいです。

鈴木 教師がこのページを開きな
さいと指示するのではなく、生徒が自
分で必要なページを見つけて開く。
いろいろな紙面を眺めて、教科書全
体を見渡ししながら、自分の好きなと
ころを見つけてほしいです。

宣 教科書を使って生徒と一緒に考
えたり、生徒にこれあるよって示し
たり、そういう生徒と並走していく

ための教科書になりましたよね。

——本日はありがとうございました。



リンゴという一つのモチーフから、さまざまに発想を広げられることを紹介したページ。



堤 祥晃
つつみ・よしあき

滋賀県生まれ。滋賀県高島市立安曇川中学校
教諭。滋賀大学教育学部卒業後、2001年か
ら滋賀県公立中学校の教諭を務め、2018年4
月より現職。「第55回 教育美術・佐武賞」佳作
賞、「第70回 読売教育賞」優秀賞を受賞。滋
賀大学大学院教育学研究科修了。光村図書
中学校『美術』教科書の編集委員。

新版教科書 ここがイチオシ！

新しい魅力が詰まった、令和7年度版中学校『美術』教科書。編集委員の先生方のおすすめのページについて、ご紹介します。

1 中学3年間で必要な資料が別冊に

豊かな表現や鑑賞の実現に向けて、別冊『資料』を活用しよう

今回の光村の教科書の特筆すべき点は、これまで教科書の紙面に混在していた材料・用具や技法、参考資料などを、内容を充実させて別冊にまとめたことだと思います。

中学校の美術ではこれまで、「教員が説明するときや作品を制作する際に、生徒が手元で見たり、折に触れ振り返り確認したりできるものが必要」などの理由で、副教材として資料集を購入したり、教員が独自に資料を準備したりしてきました。しかし、別冊『資料』を活用すれば、その

ような負担がなくなります。中学3年間で必要な資料がこの1冊にまとまっているからです。教科書に準拠した資料が即座に活用できるのも、別冊ならではの利点といえるでしょう。

別冊『資料』では、前半に活用頻度の高い多様な材料・用具や表現技法などが紹介され、生徒の意欲を膨らませる工夫がされています。中盤は、ICTの活用を踏まえた写真や映像などのデジタル表現や、思考ツールで発想や構想を広げるためのページなどが構成されています。さらに後半は、美しい写真で構成された形や色彩、イメージなど、「造形的な視点」につながるページが展開さ

れています。どのページも彩り豊かで、生徒がやってみたい！とワクワクするつくりになっています。先生方には、ぜひ教科書と別冊『資料』、ICTを効果的に活用して、生徒たちの豊かな表現と鑑賞の実現に向けた授業を展開していただきたいと思います。



まつなが
松永かおり
全国造形教育連盟委員長
東京都世田谷区立砧南中学校校長

都内公立中学校で美術科教員として勤務の後、東京都教育庁指導部指導主事、都内公立小学校副校長、東京都教職員研修センター統括指導主事、東京都教育庁指導部主任指導主事、同総務部教育政策担当課長を経て現職。光村図書中学校『美術』教科書編集委員。

3年間使用できるコンパクトな資料！

資料を別冊にすることで、3年間通して活用できるようにしました。冊子を折りたたむとコンパクトになるので、机の上に置いて参照しながら制作に取り組むことができます。



別冊『資料』 目次

描く

- どうやって描く？
- 鉛筆で描く
- 水彩絵の具で描く
- アクリル絵の具で描く
- さまざまな描き方
- 版画で表す
- 文字をデザインする
- 端末を活用する

つくる

- どんな材料でつくる？
- 紙でつくる
- 粘土でつくる
- 木でつくる
- 金属でつくる
- 石でつくる

写真

- 写真を撮影する

映像

- 映像を制作する

発想・構想

- 発想・構想のために

形・色・光

- 自然の中の形・色・光

色

- 色の世界に出会う
- 色の特徴
- 色の効果と配色
- 日本と世界の伝統色図鑑

大充実の
全36
ページ！

技法と色の
資料動画が
全47本！

技法動画がさらに使いやすく。

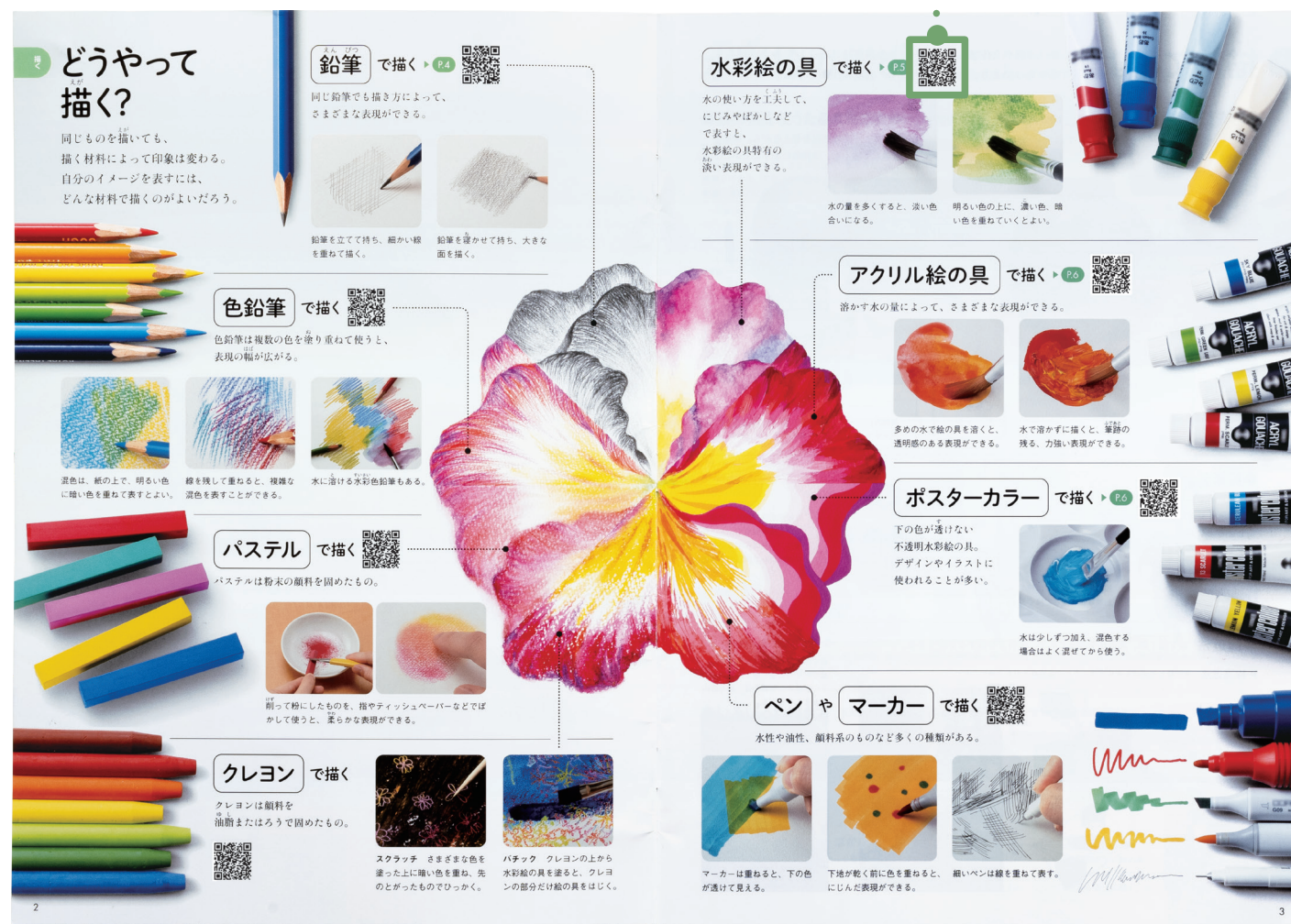
再生速度の変更や字幕のON/OFF*を選ぶことができるので、生徒一人一人の学習ペースに沿ってご活用いただけます。

※字幕が設定されている動画のみ。



水彩絵の具のいろいろな描き方

『美術1 資料』P.2～3



表現したいものに合わせて、生徒自身が描画材を選ぶことを促す導入ページ。中学校の美術で主に使われる8種類の描画材を紹介しています。

2 鑑賞を深める体感ミュージアム

教科書紙面とQRコンテンツで鑑賞を深める「体感ミュージアム」というページを1年と2・3年それぞれで新設しました。ここでは「明日の神話」(岡本太郎)を取り上げたページについてご紹介します。



おたにしょうご
大谷 省吾
東京国立近代美術館副館長

美術史家。1994年より東京国立近代美術館に勤務、2022年より現職。2011年には「生誕100年 岡本太郎展」の企画を担当した。著書に『激動期のアヴァンギャルド シュルレアリスムと日本の絵画 1928-1953』がある。光村図書中学校『美術』教科書編集委員。

『美術2・3』P.24~25

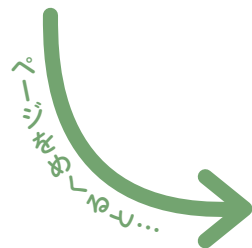


『美術2・3』P.26



ダイナミックな 見開き図版

岡本太郎の代表作「明日の神話」を見開き2ページで大きく掲載。作品の大きさや展示風景を生徒が実感できるような図版を選びました。



次のページでは作品の全図や制作風景の写真が掲載されており、作品についての理解を深めることができます。

作品を体感できるQRコンテンツ

紙面に掲載されているQRコードから、作品を体感的に鑑賞することができる多彩なコンテンツを視聴することができます。

解説動画「明日の神話・太陽の塔」



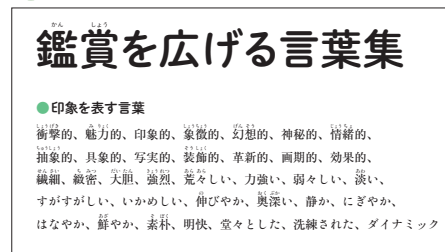
代表作「明日の神話」と「太陽の塔」について、詳細に解説しています。

解説動画「岡本太郎」



岡本太郎が制作した作品、制作の様子など豊富な資料を1本の動画にまとめました。

鑑賞を広げる言葉集



美術でよく使用される言葉をまとめた資料をご用意しました。

体感ミュージアムで 深まる鑑賞、 岡本太郎の魅力を生徒たちに

岡本太郎について授業で教えるのは、実はとても難しいことです。なにせ本人が「今日の芸術は、うまくあってはいけない。きれいであってはならない。心地よくあってはならない」と主張した人でしたから。でも、彼のように世間の一般常識をぶち壊して、べらぼうなものをつくり続けた人がいたことを、生徒たちに知ってもらうことは大切です。そして彼の一眼べらぼうな作品が、しっかりした思想的な「芯」をもっていたことにも、気づいてほしいと思います。

この「体感ミュージアム」は、まず渋谷駅を行き交う人々を見下ろす「明日の神話」の写真によって、その巨大なスケール感を知るところから始まります。ページをめくると「作



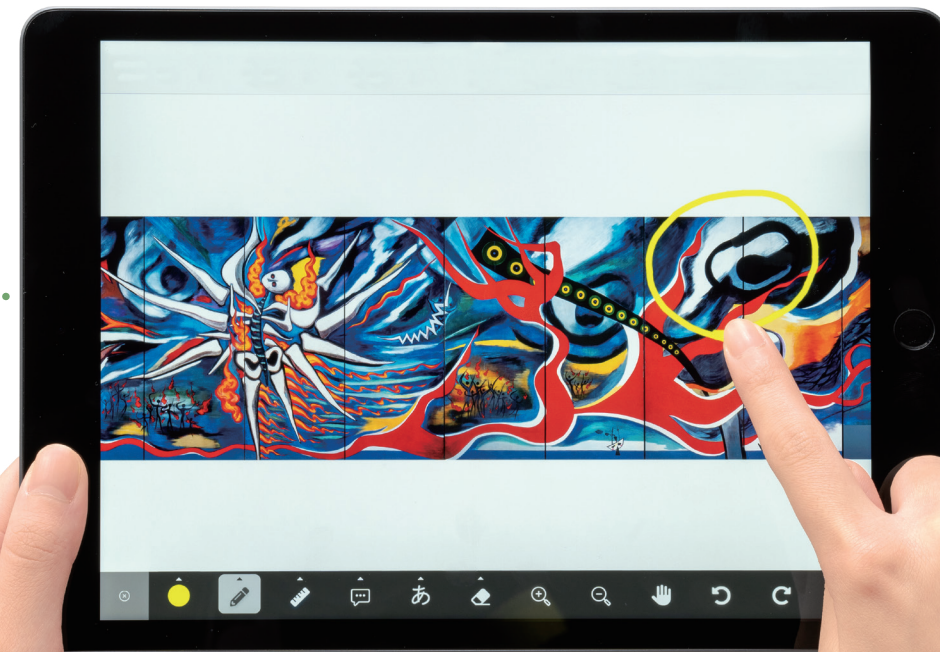
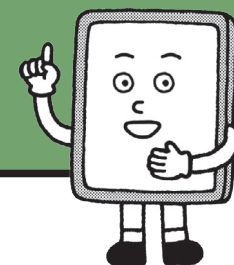
者は、この作品にどんなメッセージを込めたのだろう」と問いかけがあります。

ここで「書き込みツール」を使って、作品に描かれているものを生徒たちにどんどん書き込んでもらいましょう。すると「なぜ雲に目玉が?」「なぜ船に手足が?」のように疑問も出てくると思います。不思議に気づいて、自分なりの理由を考えてみることで、他の人はどう考えたかを知ること。それだけで鑑賞は深まるはずですよ。

各自が疑問を抱いたところで動画コンテンツを見ると、制作意図や、作者自身について知ることが出来ます。岡本太郎に初めて接する生徒たちにとって、動き、描き、語る彼の姿は強烈なインパクトを残すでしょう。さらに興味が生まれたら、ぜひ実物を訪ねてほしいですね。

「体感ミュージアム」は 教科書全体で 6か所に 設けています。

- 「ムーランド・ラ・ギャレットの舞踏場」(『美術1』P.20~21)
- 「風神・雷神像」「風神雷神図屏風」(『美術1』P.36~43)
- 「火焰型土器」(『美術1』P.58~59)
- 「最後の晚餐」(『美術2・3』P.12~15)
- 「明日の神話」(『美術2・3』P.24~26)
- 「ゲルニカ」(『美術2・3』P.60~67)



「書き込みツール&高精細画像」の画面

書き込みツール&高精細画像

書き込んで 鑑賞を深める

高精細の作品画像が手元の端末に。線や吹き出しを用いて、生徒が気づきを自由に書き込んだり、拡大縮小機能を用いて細部までじっくり鑑賞したりすることができます。

「書き込みツール&高精細画像」はこちらからお試いただけます。



3 人気の日本美術を大特集！ 「日本の絵画を楽しむ 五つのキーワード」

中学生に見てほしい人気の日本の絵画を集め、16ページにわたって特集しました。
和紙の質感に近い用紙に印刷しています。

キーワードから読み解く、 日本絵画のおもしろさ

日本美術が日常生活から消えてしまった現在、せめて日本絵画のおもしろさを中学生にどうすれば伝えられるだろうかと考え、つくってみたのが「日本の絵画を楽しむ 五つのキーワード」の特集です。他の洋紙ページとの差別化を図るため、和紙風の紙に印刷するという凝りようです。そして、日本絵画の魅力を「四季」「動物」「不思議」「余白」「構図」の五つのキーワードで見せる工夫をしました。

「四季」では、春夏秋冬を感覚的に実感できるもの。例えば、山間の溪流の音や涼しさを伝える絵や、雪の日の寒さと雪の白の美しさを伝える絵を紹介しました。

「動物」では、巨大な虎が描かれた襖を。どう見ても猫のようなコミカ

ルな虎です。「鳥獣人物戯画」では、蛙が自分より大きな兎を投げ飛ばし、怪気炎を吐く場面を掲載しました。

この目に見えない怪気炎を線で表したところに、現代の漫画に通ずる表現があります。

「不思議」では、人体を組み合わせて一つの顔をつくってみせた絵や、提灯が幽霊の顔になっている絵を。生徒の興味を引くのではないのでしょうか。

「余白」では、墨の濃淡だけで霧に煙る松林を描いたものや、金屏風に燕子花をリズムカルに配置したものを紹介しました。

「構図」では、ゴッホも驚いた広重の版画、近景を巨大化した絵や、遠景の富士が巨大に見える絵を紹介しています。

これらによって、日本絵画の奇抜な発想に気づいてほしいと思います。



やすむらとしのぶ
安村敏信
北斎館館長
静嘉堂文庫美術館館長

日本美術史家。1979年より板橋区立美術館勤務。2005年に館長に就任し、2013年に退職。2017年より北斎館館長、2023年より静嘉堂文庫美術館館長。近著に『若冲VS応挙』、『ARTBOX ゆるかわ妖怪絵』など。光村図書中学校・高等学校『美術』編集委員。

多様な日本絵画を五つのキーワードに沿って掲載！

その一 四季

「醍醐」(奥村土牛)

「夏秋溪流図屏風」(鈴木其一)

「紅葉」(横山大観)

「東京二十景 芝増上寺」(川瀬巴水)

その二 動物

「虎図襖」(長沢芦雪)

「仔犬」(中村芳中)

「鳥獣人物戯画 甲巻」

「動植 群鶏図」(伊藤若冲)

その三 不思議

「みかけはこはるがとんだい、人だ」(歌川国芳)

「百物語 お岩さん」(葛飾北斎)

「百鬼夜行絵巻」

その四 余白

「松林図屏風」(長谷川等伯)

「秋草図屏風」(依屋宗雪)

「燕子花図屏風」(尾形光琳)

「八橋時絵螺鈿 硯箱」(尾形光琳)

その五 構図

「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」(歌川広重)

「初夏の海に赤翡翠」(田中一村)

「山(富士山)」(片岡球子)

「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」(葛飾北斎)

屏風は両隻

を掲載。
余白の美しさを
じっくり鑑賞
できます。



質感のある
用紙が
16
ページ！



第2回 | さわだ・しんいち

澤田真一

1982年 滋賀県生まれ

このコーナーでは、
毎回アール・ブリュット(※)の
作家を一人取り上げ、
滋賀県立美術館ディレクターの
保坂健二郎先生に、
ご紹介いただきます。

※アールブリュットとは、「生の芸術」を意味するフランス語で、
評価や流行とは関係なく、「つくりたい」という衝動から
制作された独自の表現を指します。

陶土に命を吹き込む

澤田真一は、陶土を用いて、生き物としかいいようのないものをつくりまします。それが立体作品、つまり人工物であるのは間違いないのですが、その表情ゆえか、それともわずかな動きがそう思わせるのか、そこから非常に強い生命性が感じられます。表面には、とげのような突起がたくさんあったり、線刻が施されていたりします。また「顔」が複数あったりもします。そうした過剰ともいえる装飾性や異形性は、その生き物が人間や動物を超えた世界に生きる、神や精霊といった存在である可能性をも感じさせます。神といっても邪神かもしれませんが、人間に何かするといっても、きつといたずら程度のことでしょう。

澤田は1982年生まれ。2000年に滋

賀県立草津養護学校を卒業した後、「栗東なかよし作業所」の一員になりました(彼には自閉症と知的障害があります)。作業所では当初、自動車部品を組み立てたり、刺し子をつくったりしていました。その刺し子の糸目の細かいことに気づいたスタッフが澤田に陶芸活動への参加を促したのは2001年のことで、そこから彼の創作活動が始まりました。

制作中はほとんど口をきかず、大きな作品でも4、5日で仕上がるというスピード。そうやって生み出された作品は、2010年にパリで開催された「アール・ブリュット・ジャポネ」展で大きな評判を呼び、2013年にはヴェネツィア・ビエンナーレという世界最大の国際美術展に出品されました。その後も世界各地で紹介され、今では「アール・ブリュットの作家です」と言う必要もないほどにその評価は確かなものとなっています。

欠かせない協力者の存在

そんな澤田の作品は彼自身の想像力から生まれたものではありませんが、その背後に制作を支える協力者と場所の力があることを見逃してはなりません。

福祉施設でつくられる陶芸作品を焼くのは基本的に支援員たちです。澤田の場合、作業所に池谷正晴という陶芸の制作支援の大ベテランがいたことが大きかったと言えます。池谷は、滋賀県内にあった落穂寮という福祉施設で長く働いていた人物で、同施設が粘土造形を始める際には中心的役割を果たしました。その池谷がなかよし作業所で制作支援を行うようになったのは2001年、澤田が陶芸を始めたのと同じ年のこと。作陶に関して指導はせず見守るべきだという確信に満ちあふれたベテランが

いたからこそ、澤田独自の表現が開花したのだとも考えられます。

滋賀という地

陶芸では、素材となる陶土の用意も重要です。その点、澤田が制作する栗東市から車で30分ほど行っところには信楽という窯業地があります。この信楽エリアを中心に、昔から滋賀県内では陶土を他府県よりも安く買えました。のびのびと作品をつくるためには、材料を手軽に入手できることが重要であるのは言うまでもありません。

また信楽は、狸や火鉢のような大きなものをつくることで知られています。つまり信楽エリアには、大きなサイズをつくる技術と経験をもった人たちが多くいて、彼らがいろんな形で手助けしてくれるのでした(特に焼成では協働作業が重要です)。

信楽では花瓶や傘立てなど中くらいのサイズのものをつくるのに便利な「たたら」と呼ばれる板状の粘土を使うことも普通です。そんな信楽に近いエリアの福祉施設のアトリエでは、たたらをベースにして制作することがあります。その結果、滋賀県の福祉の現場からは、サイズとしてより大きいだけでなく、造形力が、全体の形においてだけでなく表面の装飾においても大きく発揮されている、そんな作品が数多く生まれるようになったのでした。こうした環境が素地となって、澤田の想像力が存分に羽ばたくことができたと考えられます。

保坂 健二郎 ほさか・けんじろう

滋賀県立美術館ディレクター(館長)。1976年茨城県生まれ。慶應義塾大学大学院修士課程修了。東京国立近代美術館主任研究員を経て現職。著書に『アール・ブリュット アート日本』(監修、平凡社)など。滋賀県立美術館では「人間の才能 生みだすことと生きること」展(2022年)を企画。



①《無題》 高さ53.5cm 2008年 滋賀県立美術館蔵

トーテムボールが神話や伝承などの物語を表すことが多いのに対して、澤田の作品はリズムに基づく造形に重きが置かれています。反対側にも同様に顔があるのがポイントです。



②《無題》 25×25cm 2007年 滋賀県立美術館蔵

ほぼ円形のお面。シンメトリーへのこだわりが見てとれます。対称性が少し崩れているのは焼き物ゆえか意図的なのか。



③《無題》 高さ5cm 2000年

自宅ではボール紙などでバスや車などのいわば模型をつくっています。後方確認ミラーなど観察力が見事です。



澤田が活動する滋賀県南部は、冬には粘土が凍るほど寒い場所。それゆえ制作は冬以外に行われます。これを見ると、顔は下からつくっていき、顔の輪郭をつくった後で、細いラインを施し、その上で突起を付けていくのだとわかります。黙々とつくりますが、モチーフなど、同じ作陶所で制作する他の人の影響を澤田が受けることもあるようです。もちろん、最終的にできあがるのは、これぞ澤田真一と思える作品なのですが。

令和7年度版中学校『美術2・3』
P.105には、澤田の作品が掲載されています。

制作中の澤田。
画像提供:社会福祉法人なかよし福祉会

第 24 回 松林図屏風

は せ がわ と う は く
長谷川等伯

紙本墨画、六曲一双 各156.8×356cm
16世紀(安土桃山時代) 東京国立博物館蔵(東京都)
※令和7年度版中学校教科書「美術 2・3」P.36～37に掲載



出典: ColBase (<https://colbase.nich.go.jp>)

何もない水墨画

日本の水墨画とは？と訊かれた時、まず見て欲しいと答えるのが、この松林図屏風だ。ただ松だけが描かれている。他には何もない。

けれども、松は絵の中でそれほど重要ではない。重要なのは、松を描くことによって形作られた『描かなかった』部分だ。

そこに、この絵の見どころがある。描かれなかった部分は、霧であり、大気であり、空間であり、鑑賞者との地続きの『間』だ。それが絵の前に立つ人に、幻影を見せる。その幻

影は、長谷川等伯の精神の形であり、日本水墨画そのものだと思う。松でもなく、白紙そのものでもなく、描くことと描かないことが生み出す間、いわゆる『余白』が機能している。その完成がこの絵にはある。

水墨画には減筆^{げんびつ}という考え方がある。少ない筆致で事物の本質を描くことなのだが、この絵はまさにそれだ。描かないことで、こんなにもリアルに描かれた絵は他にないだろう。

そして、しばらく佇^{たたず}んでいると、この絵の前で奇妙なことが起こっていることに気付く。鑑賞者の誰もが画面に近づかない。一定の距離を保

ち、絵の全体を眺められる位置まで離れる。誰かに教えられたわけでもない。だが、この絵との最高の距離感を、鑑賞者は自然と探してしまうのだ。最も大切なものは、間を通して現れる。

そうやって佇んだとき、今度は先に述べたような技術や仕組みではなく、長谷川等伯という一人の絵師の心が見える。とてつもなく切なく、素朴で、研ぎ澄まされた魂の形が見えてくるのだ。

それは絵に対する親しみに変わり、鑑賞者は自分の記憶と感覚を手繰り寄せる。この景色を何処かで知って

いたような気さえする。見たことあるけれど、思い出せない……。

その感覚はつまり、私たちが松林図の中を生き、等伯の精神の中で呼吸しているということなのだと思う。森羅万象そのものが等伯を通して描かせたというような絶妙な筆致も見えてくる。自然に人が手を加えられる限界値というものは、これくらい

なのかも知れない。

そんな技と、心と、感覚的なものの完成が日本水墨画の至宝「松林図屏風」だ。

結局、誰もがこの絵についての確に述べることはできない。本当にいいものとは、そんなものだと思う。

何もない、に、何もかもを見るのだ。

砥上 裕將
とがみ・ひろまさ

1984年福岡県生まれ。水墨画家・小説家。2019年、水墨画を題材にした小説『線は、僕を描く』で第59回メフィスト賞を受賞しデビュー。2022年、同作を原作とした映画が全国東宝系にて公開される。2023年12月、『線は、僕を描く』の続編となる『一線の湖』を上梓。その他の著書に『7.5グラムの軌跡』がある。

令和7年度版の教科書をコンパクトに解説した 特設サイトが4月中旬にオープンします！



令和7年度版
中学校教科書のご紹介

国語

書写

美術

英語

道徳

デジタル教科書・教材

教科書づくり7つの視点

学校生活や社会生活に役立つ資料

美術

3つの特色

- 1. 発想が広がる
- 2. 授業が見える
- 3. 見方が深まる

QRコンテンツ

美術デジタル教科書・教材

著作関係者

各種ダウンロード資料

教科書づくり7つの視点

学校生活や社会生活に役立つ資料

美術

鑑賞を新しく。
表現を自由に。

授業の取材を重ね、
生徒たちの声に耳をすまして
編集した教科書です。

この時代だからできる、新しい鑑賞体験を。
生徒たちがのびのびと
自分の表現を追求できるように。

美術1

資料

美術23

各種ダウンロード資料

- ✓ 教科書の特色を3点に絞ったコンパクトな解説
- ✓ QRコンテンツの紹介
- ✓ デジタル教科書・教材の紹介とウェブ体験版(※)
- ✓ 光村図書が教科書づくりで大切にしている7つの視点

- ✓ 豊富なダウンロード資料
 - 年間指導計画・評価計画資料
 - 教科書解説資料
 - 編修趣意書
 - 各種サポート資料



※ウェブ体験版は、お使いのスマートフォンの機種によって、ご利用いただけないコンテンツがございます。

※QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。



光村図書
ウェブサイト

光村図書

検索



小・中・高等学校
教科書訂正の
お知らせ



光村図書
LINE公式
アカウント
友だち募集中！



美術準備室 No.24

2024(令和6)年4月22日

発行人 ■ 吉田直樹
発行所 ■ 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 電話：03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp
デザイン ■ Better Days(大久保裕文+深山貴世)
印刷所 ■ 梅田印刷株式会社

内容解説資料

個人情報の取り扱いに関しては、
弊社「個人情報保護方針」にのっとり、
適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

教育情報誌に関するお問い合わせ先

住所変更・配送停止 ▶ ej1@mitsumura-tosho.co.jp
ご意見・ご感想 ▶ koho@mitsumura-tosho.co.jp



光村図書